

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月21日現在

機関番号：82705

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730730

研究課題名（和文） 発達障害児の在籍する通常学級における協同学習の  
ユニバーサルデザイン化に関する研究研究課題名（英文） Development of Universal Design Cooperative Learning in a Regular  
Class where Children with Developmental Disabilities are enrolled.

研究代表者

涌井 恵（WAKUI MEGUMI）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・主任研究員

研究者番号：80332170

研究成果の概要（和文）：

本研究は、発達障害児の在籍する通常学級において、全ての子どもが学びやすいユニバーサルデザインな協同学習のモデル授業の開発を目的とした。実践例の検討から、協同学習の具体的な授業方法をいくつか開発することができた。また、ユニバーサルデザインな教材については、発達障害児のために何か特別な教材を用意するというよりも、協同学習と併せて「学び方を学ぶ」授業を学級全体へ行うことにより解決できた。後者により、教師は多様な選択肢のあるユニバーサルデザインな授業を組み立てられること、また学級の子ども達は各々自分に合った学び方を選ぶことができた。さらに教師用ガイドブックと子ども用テキストの試作版を完成させることができた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to develop a collaborative approach to learning that are of universal design. From practical studies in elementary school classrooms, we were able to develop lesson plans on some models. The study was originally thought that teacher makes it possible to design a universal lesson by preparing something special materials for children with developmental disabilities. However, by performing a combination of cooperative learning and teaching "learn how to learn", were able to achieve universal design teaching. By performing a combination of cooperative learning and teaching "learn how to learn", the teacher came to plan a lesson universally designed. The children were able to choose how to learn each that suits them also. As a result of this study, the trial version of the guidebooks for teachers and children has been completed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：発達障害 協同学習 学び方を学ぶ授業 通常学級 多重知能（マルチ知能）学  
びのユニバーサルデザイン

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

文部科学省の2004年の調査では、LD（学習障害）やADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等の発達障害により学習や生活面で特別な教育的支援を必要とする子どもが6.3%の割合で、すなわち40人規模の通常学級に約2名または3名程度の割合で在籍している可能性が明らかになっている。これら発達障害のある子どもの中には、学習上の困難に加えて、社会的スキルが未熟であるために仲間関係に困難を抱え、それにより仲間との肯定的な関係を持つ機会がさらに阻害されるという悪循環に陥っている者も多い。こうしたことを未然に防ぎ、発達支援するために、学習指導と共に、社会的スキルや仲間関係の促進・調整のための介入の両方が必要となる。

しかし、学習課題や社会的スキル指導に関して個別場面における指導技法についての研究は数多くあるが、通常学級における有効な指導技法や支援方略についてはまだ十分に明らかにされていない。発達障害のある子どもの大多数が通常学級に在籍していることから、主要な生活場面となる通常学級における効果的な指導方略の開発が求められていた。

### 2. 研究の目的

発達障害のある子どもの多くは、学習の困難と共に、二次的に派生する仲間とのトラブルなど社会性の問題も抱えているが、彼らの生活場面となる通常学級における支援方法に関する研究は遅れている。これに対し、仲間との相互協力関係が組み込まれている協同学習は、学力と社会性双方の促進や、障害のある子どもとない子どもの仲間関係改善に効果があるといわれている。しかしながら、

障害のある子どもの在籍する学級における協同学習に関して、障害のある子どもには適切なアコモデーション（配慮・調整）やアダプテーション（代替的な回答方法、改良された教材）が必要であると指摘されており、具体的な協同学習の教材開発を行うことが求められている。一方、近年障害のある子どもに合わせて通常教育の学習内容や教材等に手を加えることに関して、全ての子どもが学びやすい学習環境、授業方法、内容について考えるという“学びのユニバーサルデザイン化（Universal Design for Learning）（CAST, 1999-2011）”が注目されている。

そこで本研究では、全ての子どもに学びやすさを提供する学びのユニバーサルデザイン化を念頭に、発達障害のある子どもの在籍する通常学級における協同学習の授業方法や教材のアコモデーション（配慮・調整）、アダプテーション（代替的な回答方法、改良された教材）について検討することを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### （1）研究1：“学びのユニバーサルデザイン”の概念を取り入れた授業理論の構築

CAST(2009)による学びのユニバーサルデザイン・ガイドラインや、多重知能（本研究では、教師・子供向けに理解しやすいようマルチ知能という用語を使用した。本稿においても以降は「マルチ知能」とする。）、協同学習に関する文献資料の収集と整理を行った。また、協同学習に取り組む学校や学級の授業参観によっても資料収集を行った。また、学会シンポジウム等においても、通常学級におけるユニバーサルデザインな授業とはどのようなもので、どのような方法によってなしえるのか等について他の研究者等と協議・検

討した。それらを基に、発達障害のある子どもを含むすべての子どもに学びが起こる、ユニバーサルデザインな協同学習の授業をどのようにつくっていけばよいのか、授業理論の構築を行った。

#### (2) 研究2：ユニバーサルデザイン化された協同学習の実践例の検討

##### ①「学び方を学ぶ」授業の開発

小学校1，2年生のクラスを対象に、「学び方を学ぶ」授業の開発を行った。マルチ知能を子どもたちに理解・体験させる授業のほか、「やる気・記憶・注意」についても理解・体験させる授業を試みた。

##### ②「学び方を学ぶ」授業と協同学習を組み合わせた指導の開発

小学校3年生のクラスを対象に、漢字学習を課題とする協同学習を行った。その際、15分程度の「学び方を学ぶ」ミニレッスンを授業に組み込み、「学び方を学ぶ」授業と協同学習を組み合わせた指導の効果について検討した。

#### (3) 教師向けガイドブックおよび子ども向けテキストの開発

研究1と研究2の成果をまとめ、「学び方を学ぶ」授業と協同学習を組み合わせた指導を行う教師向けのガイドブックと、「学び方を学ぶ」授業において使用できる子ども向けのテキストの試作版を作成した。

#### 4. 研究成果

“学びのユニバーサルデザイン”の概念を取り入れた授業理論の構築について検討したところ、子どもの学び方に合わせた授業の方法を開発すること、及び子どもたち自身が自分はどんな学び方で学んでいるのか、どんな学び方だとわかりやすいのかを気づかせることの重要性が見えてきた。

そこで、子どもが自分はどうな学び方をし

ているか気づくための「学び方を学ぶ授業」と協同学習とを組み合わせた授業の開発を行うことにした。実践事例から、発達障害のある子どもの在籍する通常学級での協同学習の具体的な授業方法を開発することができた。また、研究当初は、発達障害児のために何か特別な教材を用意することにより、ユニバーサルデザインな授業が可能になると考えていた。しかし、協同学習と「学び方を学ぶ」授業を組み合わせることで、ユニバーサルデザインな授業を実現することができた。教師は多様な選択肢のあるユニバーサルデザインの授業を実施できるようになり、また学級の子ども達は各々自分に合った学び方を選ぶことができた。また、本研究では研究知見をまとめ、教師向けのガイドブックと子ども向けのテキストの試作版を完成させることができ、研究目的を達成することができた。

協同学習といっても、我が国の通常教育場面ではつい読み書き中心の課題設定になりがちで、多様な学び方を許容できる協同学習の良さを生かし切れていない授業が多い。これに対して、本研究では協同学習とマルチ知能の考えを取り入れた「学び方を学ぶ」授業を組み合わせるという新しいアイデアにより、誰もがわかりやすいユニバーサルデザインな授業が可能であることを示した。マルチ知能の考え方は「ことばの力（言語的知能）」と平易な表現で表すことができ、子どもにも、通常学級の教員にも、特別支援教育や心理学について特に詳しくなくても、理解しやすいものであった。発達障害児の在籍する通常学級だけでなく、広く教育場面で活用できる可能性を秘めている。

今後は、この試作版のさらなる改良を進めることが課題である。また「学び方を学ぶ」授業の内容が若干学年段階別に異なってい

た方がよいのかどうかについては検討できていないので、これについても今後の課題である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計4件)

- ① 涌井恵: 通常学級での協同学習によるユニバーサルデザインな授業の可能性を探る～協同学習と「学び方を学ぶ」授業の実践から～(自主シンポジウム J-33, 企画および話題提供). 日本LD学会第20回大会, 2011年9月, 跡見学園女子大学.
- ② 涌井恵: ユニバーサルデザインな学びと授業ー「学び方を学ぶ」授業から考えるー(自主シンポジウム J-13: 通常の学級における様々なニーズを持つ子供への多角的な支援ー実践との協働から得た知見ー). 日本LD学会第19回大会, 2010年9月, 愛知県立大学.
- ③ 涌井恵: 発達障害のある子どもの在籍する通常学級における協同学習(学会企画ワークショップ). 日本協同教育学会第6回こうべ大会, 2009年10月, 神戸大学
- ④ 涌井恵: 授業の≡学びのユニバーサルデザイン(自主シンポジウム: 通常学級におけるユニバーサルデザインを考える). 日本特殊教育学会第47回大会, 2009年9月, 宇都宮大学.

[図書] (計1件) <翻訳>

Janney, R. & Snell, M.E. (2006) Social Relationships and Peer Support. Paul H. Bookes Publishing Co., Baltimore, Maryland. 高野 久美子・涌井 恵 監訳 (2011): 子どものソーシャルスキルとピアサポートー教師のためのインクルージョン・ガイドブック, 金剛出版.

[その他] <研究成果物、一般雑誌、ホームページ等> (計5件)

- ① 涌井恵(編著) (2012) 発達障害のある子どももみんな共に育つユニバーサルデザインな授業・集団づくりガイドブック～協同学習と「学び方を学ぶ授業」による新しい実践の提案～. (平成21-23年度科研費若手研究(B)「発達障害児の在籍する通常学級における協同学習のユニバーサルデザイン化に関する研究」(課題番号: 21730730) 研究成果物I)
- ② 涌井恵(2012)「学び方を学ぶ」テキスト(試作版): 学びの達人(ふろしき忍者)になれるコツ. (平成21-23年度科研費若手研究(B)「発達障害児の在籍する通常学級における協同学習のユニバーサルデザイン化に関する研究」(課題番号: 21730731) 研究成果物II)
- ③ 涌井恵(2012)選べる!ユニバーサルデザインな授業づくり(1)ー「学び方を学ぶ」授業のススメ. LD, ADHD & ASD, No. 41(4月号), p. 50-53, 明治図書.
- ④ 田中博司(2011)マルチ能力活用でこどもの「学び」が変わる!. 授業づくりネットワーク, No. 2(通巻310号), p. 88-91, 学事出版.
- ⑤ 涌井恵(2011)連載: 発達障害のある子どもも共に学び育つ通常の学級での授業・集団づくり(全6回), 国立特別支援教育総合研究所メールマガジン第53-58号(8-11月), 国立特別支援教育総合研究所. <http://www.nise.go.jp/cms/6,3601,13,257.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

涌井 恵 (WAKUI MEGUMI)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・主任研究員

研究者番号: 80332170